

新科目「公共」における主体的・対話的で深い学びとは —教科書を用いた「思考力、判断力、表現力等」の育成—

奈良学園中学校・高等学校特任教諭
山本 雅康

1. はじめに

学習指導要領の改訂により、公民科において、1、2年次の必修教科目として「公共」が新設された。

「公共」の学習指導要領は、「A 公共の扉」「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参加する私たち」「C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち」の大項目から構成されている。このうち、内容Aの「公共の扉」は、この科目の導入として位置づけられており、内容B・内容Cの学習の基盤を養うものとされている。

学習指導要領解説では、「公共」は、高等学校における道徳教育としての人間としての在り方生き方に関する教育において重要な役割を担っている」と位置づけられており、「公共の扉」において、「中学校の道徳教育における指導を受け継ぐよう、十分関連を図る必要がある」とされている。

本稿では、新科目「公共」において最も特徴的な「A 公共の扉」について、数研出版の教科書『公共』『高等学校 公共』をもとに、①「公共的空間」、②「対話」、③「思考実験」の三つのキーワードに着目して解説していく。そのうえで、「主体的・対話的で深い学び」をどのように実現させ、「思考力、判断力、

表現力」をどのように育成していくかについて、私自身の実践をふまえて考えていきたい。

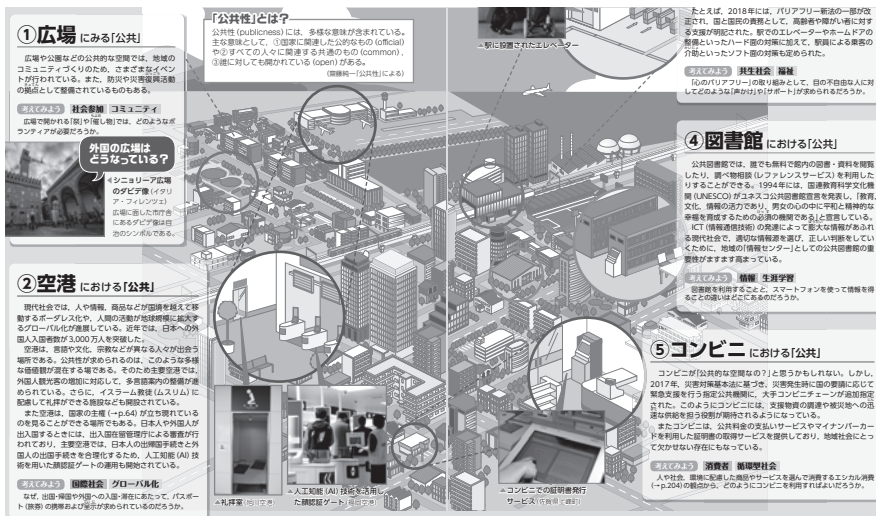
2. キーワード①「公共的空間」

学習指導要領では、内容A「(1) 公共的な空間を作る私たち」の項目において、次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けることを求めている。

社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現すること。

この内容を受け、教科書『公共』(pp.8~9)と『高等学校 公共』(pp.10~11)では、冒頭部の見開きで、イラストを活用して高校生にとって身近な「公共的な空間」を示している。

そして、学習指導要領における「自分自身が、主体的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になる」という課題について、「考えてみよう」という形で具体的に問いかけている(次ページの表の①~⑤)。本稿では、①について詳しく紹介しておきたい。



教科書「公共」 pp.8~9

公共的な空間	自立した主体となることへの問い
①広場	「催し物」などで必要なボランティア
②空港	パスポートの携帯・呈示の義務
③駅	「心のバリアフリー」の実践
④図書館	情報収集でのスマートフォンとの違い
⑤コンビニ	エシカル消費の観点でのコンビニ利用

①の「広場にみる「公共」」では、まず、広場が地域のコミュニティづくりのための場であることや、防災・災害復興の拠点になっていることについて説明している。そして、広場で開かれる「祭」や「催し物」では、どのようなボランティアが必要とされているかという問いが示されている。

また、外国の広場との比較として、フィレンツェのシニョリア広場を紹介し、ミケランジェロ制作のダビデ像(現在は模刻)が自治のシンボルになっていることに言及している。

3. キーワード②「対話」

学習指導要領解説では、「自分とは異なる価値観に基づく主張を傾聴したり、様々な立場に立って共感的に他者の思いを受け入れたるることや、根拠を基に自分の考えを示したり自分の主張の必要性や重要性を説明したりするなど丁寧な対話を積み重ねることが不可欠である」と記され、高校生が養う態度としての対話の必要性・重要性を明確にしている。

そこで、教科書『公共』(pp.10~11)と『高等学校 公共』(pp.16~17)では、「哲学対話」を紹介している。「哲学対話」の詳細については、梶谷真司「探究学習と哲学対話」『AGORA No.73』を参照してほしい。

梶谷真司「探究学習と哲学対話」
『AGORA No.73』



本稿では、私自身の授業実践を紹介し、「哲学対話」を「公共」の授業で取り入れる際のポイントについて考えていきたい。

【実践1】

《授業の概要》

- ・2019年11月に高校3年生の学年全体(5クラス)の特設ホームルームで実施。クラスの枠組みを超えて12人を基本としたグループ(全16グループ)を教員側で編成し、体育館で実施。時間は50分。
- ・進行役はグループ内で選ばせ、学年団の教員9人が適宜巡回。

《対話のテーマ》

1. 「配布されたSDGsの資料をもとに、2030年の段階で、SDGsの17の目標のなかで自分の人生(28歳、29歳ごろ)に最も関係のあるもの」
2. 「自分が親の年齢になったとき、幸せに生きていくために、必要なものや大切なもの」

《生徒の振り返り》

【生徒A】 将来について、それぞれが色々なことを考えているけど、それらすべてが違う視点からの言葉だったのがおもしろかった。グループの中には面識がある人とそうでない人がいたのが、面識がある人のその人ならではの意見をきくと深く納得できたし、面識がない人でもこの1時間でその人がどう考えているのか、どんな人なのかが知れて興味深い「対話」ができたと思う。

【生徒B】 1人の人が話すだけではなかなか周りの理解が得られなかったけれど、自分の疑問に思ったところをそれぞれが質問し合うことで深く理解することができた。自分の言いたいことを相手が分かりやすいように伝えるのも大事だけれど、聞いている人が質問することによってお互いが考えを深められるのだと分かった。

【生徒C】 対話はなかなか上手いはず、難しかった。対話の内容がやや身近でないからか、最初に自分の意見を選択した理由も含めて述べてしまうと、なかなか質問が思い浮かばなかった。質問がなされても、なかなか話の広がりが生まれず、最初の発言者が質問の余地を残すべきだとも思わないが、話の広がりを生む術を考えなければならなかったかもしれない。

◎「哲学対話」を授業に組み入れるポイント①—「対話」の意義を生徒が認識・理解できるようになる

「公共」の授業1時間に「哲学対話」を組み入れる場合、2~3グループを設けて、進行役を生徒として、教員は適宜巡回するといった形が考えられる。進行役が生徒の場合、特定のテーマを内容面で掘り下げ深めることはなかなか難しい。教科書『公共』(pp.10~11)と『高等学校 公共』(p.16)で示されたルールと基本的な問い方に基づいて、「対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うこと」(学習指導要領)ができていたかどうかポイントとなる。

梶谷氏は前掲の「探究学習と哲学対話」で「自由に発言し、相互に問いかけることで、互いを尊重し、違いを受け止められるようになる。多様な人がどうすれば共にいられるのか実感をもって理解できる」と述べて、対話する意義について指摘している。上

記【実践1】の【生徒A】と【生徒B】の感想からも、対話すること自体の意義が確認できる。

◎「哲学対話」を授業に組み入れるポイント②—「問う」ことの意味・大切さを認識・理解できるようになる

上記【実践1】の【生徒C】は、質問することの難しさや大切さに気づいてくれた。梶谷氏は前掲の「探究学習と哲学対話」で、「思考とは自己との対話」であり、「考える」とはそうした自分の問いを考えることである」と述べて、問うことの大切さを強調している。また、学習指導要領解説でも「人間としての在り方生き方に関する適切な問いを立てて探求することが大切である」とされている。

「哲学対話」では、生命倫理などの基本的人権にかかわるテーマを取り上げる場合、生徒が進行役になるのは適切ではなく、教員がファシリテーターを務めなければならない。しかし、それが難しい場合、どうすればよいだろうか。

2021年1月に高校2年生の「現代社会」の4クラスで、「問い」を立てることに特化した授業を実施した(【実践2】)。

感染症対策でグループワークの実施ができないなか、「NHK for School」上にある番組「Q～こどものための哲学」を活用した。この番組は小学生を対象にしているが、大人が行う「哲学対話」でも絵本や童話を取り上げられるように、高校生がリラックスして考えるのに適している。ぜひ活用してほしい。

【実践2】

《授業の流れ》

前回までの授業で教科書・プリントをもとに「科学技術の発達と生命」を取り上げた。それをふまえ、基本的な問い方を示したうえで、

☆ワーク1 「NHK for School」の「Q～こどものための哲学 良いこと、悪いことってなに？」を見て考える。(15分)

☆ワーク2 「良いこと、悪いこと」というテーマのもとで、ワーク1を参考にして、《基本的な問い方》のどれかを用いて、学習プリント「科学技術の発達と生命」のなかから具体的な問いを三つ立てる。(15分)

☆ワーク3 ワークシートを前後の席などで交換し、三つの具体的な問いのなかで、対話するのがもっとも大切、または必要だと考える問いを選び、選んだ理由を答える。(8分)

☆ワーク4 振り返り。(6分)

《ワーク3で生徒が立て、ほかの生徒が選んだ問い。あるクラス(36名)の場合》

- ・「尊厳死・安楽死・緩和ケア」11人
- ・「生殖補助医療 体外受精」7人
- ・「臓器移植・脳死」6人
- ・「ヒトへのクローン技術の適用」5人
- ・「遺伝子組み換え ゲノム編集」3人
- ・「その他」4人

《生徒の振り返りより》

【生徒D】 普段は授業として聞いてテストのために覚えるという作業を繰り返すのに使っているプリントの中からも、よく考えるとたくさんの問いが生まれることに気が付いた。また、この問いについて一人で考えるだけでなく、対話することが重要であると分かった。

【生徒E】 問いは単純でも、立場を変えたり深く話し合うことで逆の結論になる。問いが具体的なほど対話しやすく深い結果になる。

【生徒F】 重要なことは、生命倫理の各分野において、「良いこと」「悪いこと」を考え、それが問いに適用できるかどうかを考えることが大事であると思った。数珠つなぎに問いを深めていくことが必要であると強く感じた。

【生徒G】 すべて命に関わっていて簡単に結論を出すことは難しいが、多方面からの視点で問題を見ることでいざ解決できるかもしれない。話し合うことで気づけなかったケースに気づくことが出来ることもわかった。

【生徒H】 一人で考えるよりも違う人と考える方が、自分では考えることができなかったものを知ることができてよいと思った。もっと多人数でしゃべりながらの方がずっとよいと思った。

◆編集部より 今回のプリントの例を数研 AGORA のHP に掲載いたします。
https://www.chart.co.jp/subject/shakai/shakai_agora.html



上記の生徒【生徒D】【生徒E】【生徒F】の振り返りの通り、生徒たちは問いを立てることの大切さを認識してくれた。また、【生徒G】【生徒H】のように、対話の意義についても認識してくれたと思う。

4. キーワード③「思考実験」

学習指導要領は内容A「(2) 公共的な空間における人間としての在り方生き方」の項目において、次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けることを求めている。

倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現すること。

この内容を受け、教科書『公共』(pp.36~37)と『高等学校 公共』(pp.38~39)では、「考え方のレッスン」として功利主義と義務論の考え方が紹介されており、思考実験の例として、児玉聡『功利主義入門』(筑摩書房)から「無人島の約束」が取り上げられている(『AGORA No.72』では、児玉氏が「思考実験」についてレクチャーしている)。高校生が倫理的主体として、ベンサムが説いた功利主義と、カントのいう義務論について考えるのに適した題材であるので、ぜひ活用したい。

児玉聡「思考実験」とは何か

『AGORA No.72』

⇒



本稿では、2020年12月に高校2年生の「現代社会」4クラスで実施した個人ワークを紹介する。

「思考実験」は、「公共」の授業のなかで比較的实施が容易なものであり、生徒の反応もよい。教科書の「思考実験」の続編として、生徒に提示してほしい。

なお、教材に用いたのは、亀田達也『モラルの起源』(岩波書店)で紹介されている「分配に関する思考実験」である。同書は、自然科学の知見をふまえてさまざまな「思考実験」がコンパクトに紹介されており、授業で活用されることをおすすめしたい。

【実践3】

…酷暑のなか、1,000キロの食糧を積んだトラックが災害に襲われた地域に向かっていきます。予期せぬ悪路のため時間がかかり、地域の全員に食糧を配ろうとすると確実に400キロの食糧が腐ってしまいます(A)。しかしもし途中でトラックを止め、地域の70%の住民にすべての食糧を渡すならば食糧の損失はほぼゼロで済みます(B)。

(亀田達也『モラルの起源』pp.121~122による。

(A/B)は筆者で付記した)

☆こうした状況であなたはどちらを選びますか。

☆判断の根拠となる原理・原則について説明しなさい。

あるクラスでは、34名中、Aが19名、Bが14名、この条件では判断できないとしたのが1名であった。

意見が大きく分かれており、「思考実験」としては成功といえよう。

Aを選んだ生徒のうち、以下の【生徒I】のように、食糧を届けて命を救うという「目的」や「動機」を原理・原則として強調した生徒は11名であった。

【生徒J】のように、「公平」や「平等」を強調した生徒は9名であった(両方が重なる答えも多かったが、どちらかに分類している)。

一方、Bを選んだ生徒のうち、【生徒K】のように、食糧を無駄にしないで配るという「効率」を重視した生徒が11名であった。

【生徒L】のように、まず70%の多数派の人を助けることを重視した生徒が3名であった。

《生徒が答えた判断の根拠》

【生徒I】(「目的」や「動機」)残りの600キロ分だけでも被災地の方々のもとへ届けられたら少しでも多くの命を助けられる。

【生徒J】(「公平」や「平等」)400キロの食糧が腐ったとしても被災地の全員に配るという平等性を優先すべきだと思ったから。

【生徒K】(「効率」)全員に1,000キロの食糧を渡したとき、 $100人 \times 1,000キロ = 100,000$ と仮定する。
A: $100人 \times 600キロ = 60,000$, B: $70人 \times 1,000キロ = 70,000$ 。よって、Bの方がよい。

【生徒L】(「最大多数の最大幸福」)確実により多くの人を救う方を選ぶべきだと思う。

このワークは、社会保障の学習の導入として、もう一つのワークと合わせて実施した。「目的」や「動機」、「効率」と「公正」についての見方・考え方について言及した程度であったが、ベーシックインカムなどに対する倫理的価値判断について考えさせることにつなげることができた。

5. おわりに

本稿では、三つのキーワードについて、私の実践をもとに、内容A「公共の扉」に関して、教科書を用いた指導を考えてきた。「公共の扉」での学習の基盤の上に、内容B・Cの学習活動が展開される。

新科目「公共」について、学習指導要領解説は、「科目固有の性格を明確にした指導」を求めている。高校では、地歴科が専門の教員が指導するケースも多いと思われる。指導にあたって、本稿を参考にする点が少しでもあれば幸いである。